

| | | | | | |
|----------|------------------------------|--------|--------|-------------|------------|
| 科目名 | 基盤看護学特論 I (看護教育学領域) | | | 担当教員：清水 かおり | |
| 科目名 (英語) | Advanced Nursing Education I | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 1～2 | 看研 6 (清水) | 月曜日・木曜日 6限 |

1. 授業の概要：
看護教育の歴史と制度、ならびに看護教育における基礎理論、方法論を修得する。看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる看護教育学の理論に加え、関連学問領域の理論・主要概念を学習する。看護職における継続教育の現状と課題、キャリア開発支援について理解を深め、看護職への教育のあり方についてディスカッションやプレゼンテーションを通して探求する。

2. 到達目標：
1) 「看護教育学」の内容を踏まえ、看護学教員、院内教育、認定看護師・専門看護師等の役割を担う看護職者が教育的機能を果たすための基盤となる知識を修得する。
2) 看護教育学の全体構造および看護教育学各論を学習し、看護学教員、院内教育、認定看護師・専門看護師等の役割を担う看護職者が、教育活動を展開するために必要な基本的知識・技術を修得する。
3) 質の高い看護基礎・卒後・継続教育を展開するために、教育計画の立案、実施、評価、計画修正の実際を理解する。
4) 看護継続教育の現状を分析・考察し、看護継続教育の位置づけと課題を明らかにする。

3. 授業の計画と内容
第 1 週 看護教育学概論 1 授業の意義・学習方法の理解
・ 授業の目的・目標、授業展開の理解
第 2 週 看護教育学概論 2 看護教育学の基本的知識の理解
・ 看護職者が質の高い看護基礎・卒後・継続教育を展開するための基本的な知識の理解と活用 (講義および討議)
第 3～14 週 教育学の基礎理論の理解と看護基礎・卒後・継続教育への統合
・ 教育学の基礎理論に対する理解と看護基礎・卒後・継続教育への統合
第 15 週 まとめ
・ 看護基礎・卒後・継続教育、患者教育の展開に向けて、対象の特徴を反映し、かつニーズを充足しうる教育計画の立案、実施、評価、計画修正の実際について討議する。

4. テキスト：
1) Billings Diane M, Judith A. Halstead 著, 奥宮 暁子, 小林 美子, 佐々木 順子 翻訳 (2014) . 「看護を教授すること 原著第 4 版—大学教員のためのガイドブック」医歯薬出版。
2) グレック美鈴、池西悦子編集 (2009) 「看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う」南江堂。
3) 舟島なをみ編集 (2007) . 「院内教育プログラムの立案・実施・評価—「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用」医学書院。
4) 舟島なをみ監修 (2013) . 「看護学教育における授業展開—質の高い講義・演習・実習の実現に向けて—」, 医学書院。
5) 杉森みどり (2014) . 「看護教育学 第 5 版増補版」医学書院。

5. 準備学習：学生は、毎回、課題図書および関連文献の精読を通して、内容を正確に理解する。また、疑問点や理解を深めたい点を明確にした上で授業に参加する。発表者は、学習内容を要約しレジュメ (A4 判用紙 2 枚程度) を作成し提出する。

6. 成績評価の方法：
・活動状況 60 点 (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
・レポートの内容 40 点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ)
・合計 100 点満点

7. 履修の条件：看護教育学を履修していること

| | | | | | |
|---------|---------------------|--------|--------|-------------|----------|
| 科目名 | 基盤看護学特論 I (国際看護学領域) | | | 担当教員：横川 裕美子 | |
| 科目名(英語) | | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前期 | 2~3 | 研究室 403 | 授業内で提示する |

1. 授業の概要：

国際保健医療および看護職による国際協力活動や研究について理解することを目的に、異文化理解と国際協力活動に関する講義を行なう。国や地域を越えた自然環境の変化や災害、貧困、健康問題が増加する社会の中で、看護職の役割が拡大してきていることをふまえて、国内・国外にかかわらず医療・保健・看護の現状を理解し、人々の健康を維持・増進するための看護の課題について展望する。また異なる文化背景をもつ人々の多様なニーズを尊重した看護について考察する。

2. 到達目標：

- 1) 国や地域における健康課題、あるいは共通した新しい健康課題について理解する。
- 2) 国際協力活動の基本的な理念や開発目標を理解し、国や地域で求められる看護の機能を考察する。
- 3) 多様な文化背景をもつ対象のニーズを理解して尊重するための理論をもとに看護の展開を検討する。
- 4) 多文化共生社会における看護職の役割と可能性について考察し実践することができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 国際看護学の概念
- 第 2 週 国や地域における健康課題と看護①
- 第 3 週 国や地域における健康課題と看護②
- 第 4 週 国際協力活動の基本的な理念・開発目標
- 第 5 週 文化を尊重した看護理論①
- 第 6 週 文化を尊重した看護理論②
- 第 7 週 文化を尊重した看護理論③
- 第 8 週 看護の国際協力活動①
- 第 9 週 看護の国際協力活動②
- 第 10 週 看護の国際協力活動③
- 第 11 週 日本に居住する外国人に対する看護の役割①
- 第 12 週 日本に居住する外国人に対する看護の役割②
- 第 13 週 日本における民族の尊厳を守る看護のありかた
- 第 14 週 海外に居住する日本人に対する看護
- 第 15 週 多文化共生社会における看護職の役割

4. テキスト： レイニンガー看護論「文化ケアの多様性と普遍性」医学書院

5. 準備学習：課題を提示するので、準備すること

6. 成績評価の方法：

- ・授業中における討議への積極的参加，予習，プレゼンテーション 50 点
- ・最終レポート 50 点

合 計 100 点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：

| | | | | | |
|---------|-------------------------------|--------|--------|-------------|------------|
| 科目名 | 基盤看護学特論Ⅱ（看護教育学領域） | | | 担当教員：清水 かおり | |
| 科目名（英語） | Advanced Nursing Education II | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 1～2 | 看研 6（清水） | 月曜日・木曜日 6限 |

1. 授業の概要：
 教育学および看護教育学の理論を適用した看護基礎・卒後教育課程、あるいは継続教育プログラムの編成・運用の実際と看護学教育活動の展開を学修する。看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくりなど、効果的な継続教育を実施していくための知識や理論・技術を学修する。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、看護基礎教育において到達すべき看護実践能力、継続教育におけるキャリア開発について探求する。

2. 到達目標：
 1) 看護基礎・卒後教育カリキュラム、あるいは看護継続教育プログラム編成の実際を体験し、教育プログラムの展開に必要な基本的知識を修得する。
 2) 授業展開のための基礎知識（授業を支える理論、授業展開に必要な基礎知識）を活用して模擬授業を展開し、看護職者の能力向上を目指す教授活動について論述する。
 3) 看護基礎・卒後教育カリキュラム、あるいは看護継続教育における教育活動の展開、および教育カリキュラムあるいは教育プログラムの編成・運用の方法を説明する。

3. 授業の計画と内容（受講生の背景に合わせ、以下のA、Bどちらかで進める。）

| | |
|--|--|
| A. 看護基礎教育カリキュラム編成の実際 | B. 看護継続教育プログラム編成の実際 |
| 第1～4週：方向付け段階の理解 第5週：プレゼンテーション1「方向付け段階」 第6～8週：方向付け段階の再検討と形成段階に向けた資料作成 第9～10週：形成段階の理解 第11週：プレゼンテーション2「形成段階」 第12～13週：実施段階の理解（教授、学習および情報資源） 第14週：プレゼンテーション3「模擬授業の展開」 第15週：まとめ | 第1～3週：所属施設の現状を把握に必要なデータを収集・分析し、その結果を成文化する。 第4週：プレゼンテーション1「現行の院内教育プログラムの分析」 第5～8週：診断が必要な看護職者集団のデータを収集する。 第9～10週：教育ニーズの調査結果を基に対象別プログラムの組み合わせや研修内容を決定する。 第11週：プレゼンテーション2「再構築した院内教育プログラム」 第12～13週：研修計画書を作成し、外発的動機づけとなる要素を加味した運営方法を検討する。 第14週：プレゼンテーション3「模擬研修の展開」 第15週：まとめ |

4. テキスト：
 1) Billings Diane M, Judith A.Halstead 著, 奥宮 暁子, 小林 美子, 佐々木 順子 翻訳 (2014) . 「看護を教授すること 原著第4版—大学教員のためのガイドブック」医歯薬出版.
 2) Gertrude Torres, Marjorie Stanton 著, 近藤 潤子, 小山 真理子 翻訳 (1988) . 「看護教育カリキュラム—その作成過程」医学書院.
 3) 舟島なをみ編集 (2007). 「院内教育プログラムの立案・実施・評価—「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用」医学書院.
 4) 舟島なをみ監修 (2013). 「看護学教育における授業展開—質の高い講義・演習・実習の実現に向けて—」, 医学書院.
 5) 杉森みど里 (2014). 「看護教育学 第5版増補版」医学書院.

5. 準備学習：毎回、関連文献を精読し、その理解に基づきグループ討議を行う。また、必要に応じて授業外時間を活用し、グループ討議を展開しながら計画的に学習を進める。

6. 成績評価の方法：
 ・活動状況 70点（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）
 ・レポートの内容 30点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）
 ・合計 100点満点

7. 履修の条件：看護学教育特論Ⅰを履修済みであること

| | | | | | |
|---------|-------------------|--------|--------|-------------|----------|
| 科目名 | 基盤看護学特論Ⅱ（国際看護学領域） | | | 担当教員：横川 裕美子 | |
| 科目名（英語） | | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前期 | 2～3 | 研究室 403 | 授業内で提示する |

1. 授業の概要：

国際看護学領域では、開発途上国の看護・保健医療福祉事情を理解するとともに、その国の社会背景や文化を踏まえた国際看護協力の活動のありかたを探求するために、その支援と実践について検討する。

2. 到達目標：

- 1) 開発途上国の看護や保健医療福祉の現状と課題について理解することができる
- 2) 看護の教育・臨床・保健の現場における国際協力活動について、その計画や支援のありかたを考察することができる
- 3) 国際看護協力の研究に関する動向について理解することができる

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 看護教育の現場における活動①
- 第 3 週 看護教育の現場における活動②
- 第 4 週 臨床における活動①
- 第 5 週 臨床における活動②
- 第 6 週 地域保健活動①
- 第 7 週 地域保健活動②
- 第 8 週 地域保健活動③
- 第 9 週 地域保健プロジェクト①
- 第 10 週 地域保健プロジェクト②
- 第 11 週 地域保健プロジェクト③
- 第 12 週 国際看護関連の文献検討①
- 第 13 週 国際看護関連の文献検討②
- 第 14 週 国際看護関連の文献検討③
- 第 15 週 まとめ

4. テキスト： レイニンガー看護論「文化ケアの多様性と普遍性」医学書院

5. 準備学習：課題を提示するので、準備すること

6. 成績評価の方法：

- ・予習（事前の資料準備），授業中における討議への積極的参加，予習，プレゼンテーション 50 点
- ・最終レポート 50 点
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：基盤看護学特論Ⅰ（国際看護学）を履修済みであること

8. その他：

ディスカッション形式ですすめる。